

① 学習指導案

プログラム	No.1 1 「地域景観プランナーになろう」
単元名 (全40時間)	潟ものがたり
学習のねらい	○場所によって地域・自然・景観のよさが異なることに気づく。 ○自分の暮らす地域と、訪れた場所の地域・自然・景観との違いを知る。 ○自分のまち（地域）のよさについて、友達の考え方や見方に違いがあることを知る。 ○情報収集能力を身につけ、情報を効果的に伝えていく方法を経験する。 ○まちのよさを活かしていくために必要なことを話し合う。
学習内容	1 「潟」について調べ、潟への追求意識を高める。 2 鳥屋野潟に詳しい方を招き、鳥屋野潟の歴史や水辺環境について教えてもらう。 3 鳥屋野潟で乗船体験をする。 4 福島潟へ行き、鳥屋野潟と比較する。 5 鳥屋野潟の水辺環境を守る取組を提案・発信する。
参考資料 準備品 実施場所等	空芯菜の種、水質検査キット、生き物図鑑、記録用紙 教室、特別活動室、鳥屋野潟、福島潟、ビュー福島潟

学習の流れ

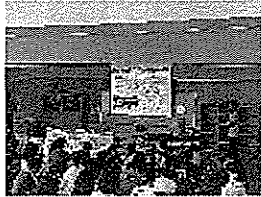
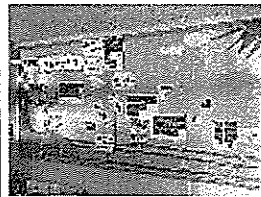
時間	学習活動	教師の指導	評価
1～3	○「潟」についてパンフレット等から調べ、潟のできた歴史や潟の水辺の様子を知り、潟への関心を高めることができる。	・新潟市に16か所ある潟について知らせ、「潟」の意味を問い、潟を調べることへの意欲を高められるようにする。	・市内にたくさんある潟について関心を高めている。
4～15	○鳥屋野潟の水辺環境の景観や歴史、循環について話を聞いたり、鳥屋野潟で乗船体験を行い、鳥屋野潟の水辺の様子を観察したりして情報を収集し、まとめる。	・鳥屋野潟の水辺環境の歴史について市や地域の団体のゲストティーチャーから話を聞く場を設定する。 ・鳥屋野潟の水辺への意欲が高まったところで、鳥屋野潟の水辺の様子を観察に行く。	・鳥屋野潟が昔から地域住民と自然とをつなぐ場であったことや手入れが必要なこと、鳥屋野潟が自分の生活と関わっていることを理解している。
16～25	○福島潟を訪れ、新潟水俣病の歴史について学んだり、鳥屋野潟の水辺環境と比較したりして水辺環境の在り方を整理・分析し、まとめる。	・福島潟の担当者と出会い、水質汚染が人体に悪影響を及ぼすことや新潟水俣病について学ぶ場を設定する。	・新潟水俣病を学ぶことから水質汚染の人体への影響を理解し、鳥屋野潟の水辺環境を守ろうとする意欲を高めている。
26～40	○鳥屋野潟の水辺環境を守るために、自分たちにできることを行い、地域住民等に提案する。	・ゴミ拾いや鳥屋野潟で栽培している空芯菜の栽培、空芯菜レシピの考案等、子どもがこれまでの学習を生かし、鳥屋野潟の水辺環境や景観を守	・鳥屋野潟の水辺環境を守るために、歴史や現地の様子、住民の思い等を関連付けながら、

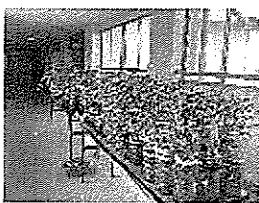
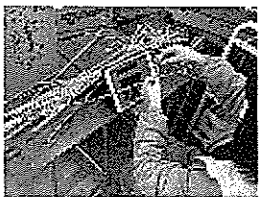
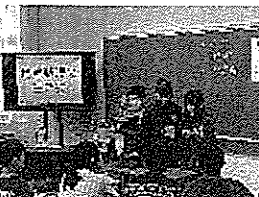
		るために考えた方策を行えるよう支援する。 ・子どもが自分でもできる活動を考えられるよう助言する。 ・プレゼン等に活動してきた内容を入れ、鳥屋野潟を守るよさを地域住民に伝える。	方策を考えている。 ・地域全体で鳥屋野潟を守り続けるための表現方法を考えている。 ・鳥屋野潟の水辺環境や景観を守ることの良さを広めるための活動をしようとしている。
--	--	---	---

<留意点>

- ・地域住民だけでなく、県内外の人々からも親しまれていることや自分の生活と密接に関係している鳥屋野潟にこれまで以上に愛着をもてるようにしたい。そのために、地域で活動されている多くの方々に協力していただき、子どもの知らない新事実と出あわせ、歴史的側面や文化的側面への関心が高まるようにしていきたい。
- ・水質汚染や福島潟での新潟水俣病の学習など、マイナスなイメージの学習ばかりにとらわれず、潟沿いの植栽や水生生物の成長等により、四季によって潟の見え方が異なるなど、「よさ」をとらえられる学習を中心に進め、鳥屋野潟への関心を高められるようにする。そうして、子ども自身が鳥屋野潟の新事実を見つけ、地域に生きる一員として鳥屋野潟を守ろうとする意欲を高められるようにしていきたい。

② 事業実施報告書詳細

学校名 新潟市立桜が丘小学校				
時間数	場所	概要	活動記録(写真)	対象者の反応
3	学校	・「潟」について知っていることを挙げさせ、身近な潟について自分たちがよく知らないことを認識した。 ・パンフレットやインターネットを使って「潟」について調べ、身近にある「鳥屋野潟」について関心を高めた。		・「潟」のことがよく分かっていなかった。 ・近くに「鳥屋野潟」があるから、潟のことをもっと知りたいたい。詳しい方から話を聞いてみたい。
3	学校	・鳥屋野潟に詳しい地域の団体の方をゲストティーチャーとして招き、鳥屋野潟の歴史や環境、水辺の生物、循環についての話を聞いた。		・鳥屋野潟が昔は地域住民の遊び場であり、大切にされていたことが分かった。 ・鳥屋野潟は今、昔ほど大切に使われていないから、自分たちで何ができるか考えたい。
5	学校	・鳥屋野潟の「循環」について調べ、鳥屋野潟で見られる動植物について廊下の掲示板に児童が描いた生き物のイラストを貼って再現コーナーを作った。		・鳥屋野潟では多様な生物が関わり合っていることが分かった。

3	学校	・循環の基になっている空芯菜を学校で育てることにした。 ・一人一つのペットボトルと学校畑に空芯菜の種を植えた。		・空芯菜は食べたことがあり、栄養があるけれど、水をきれいにするのは本当なのか。
5	鳥屋野潟	・鳥屋野潟へ行き、乗船体験をしたり、水辺の会の方から水の透明度や空芯菜、鳥屋野潟周辺の方の昔の暮らし等について教えてもらったりした。		・水質は少しずつ改善されているが、透明度はまだままで、濁っている。 ・空芯菜の根元を棲み処としている小さな生き物もいる。 ・鳥屋野潟周辺の住民は、昔は「ヨシ」という植物を使ってかごなどを編んで生活の道具としていた。
7	福島潟	・福島潟へ行き、新潟水俣病が発生した水質を改善してきた歴史や福島潟の生き物、守る活動等について教えてもらった。		・鳥屋野潟の環境の改善に向けて活動する必要がある。
				・福島潟は鳥屋野潟より生き物が多く感じた。希少な生き物や外来種がいることが分かった。 ・福島潟も鳥屋野潟と同じで、守る活動を行っていることが分かった。
5	学校	・鳥屋野潟の環境を守るために自分達ができることをした。(空芯菜料理のレシピ考案、空芯菜でお茶作り、鳥屋野潟の食べられる植物まとめ、鳥屋野潟の強力な外来種まとめ、水質の歴史まとめ、ヨシを使った小物作り)		・鳥屋野潟の環境を守るために小学生の自分でもできることはたくさんあった。
5	学校	・自分たちが行ってきたことをグループごとにプレゼン資料にまとめた。		・鳥屋野潟は地域住民や県内外の多くの方から愛されていて環境がもっとよくなれば、さらに多くの方が好きになってくれると思う。そのためには、一人一人が鳥屋野潟の環境を守る行動を心がけ、小さなことから自分でできることをやるのが大切だと思った。
4		・作成したプレゼン資料を学習参観日に保護者に提案した。		

③ 実施内容について

(1) 実施にあたり工夫した点

- ・乗船体験に留まらないように、水辺の環境について思考させることができるよう、空芯菜を身近に置いて観察できるようにした。(一人一ペットボトル栽培)
- ・ペットボトルと校地内の畑にも空芯菜を栽培し、陸と水栽培の比較を行った。
- ・資源の循環について思考させることができるよう、空芯菜を乾燥させて茶葉にする体験を計画した。

(2) 実施にあたり苦労した点

- ・鳥屋野潟や清五郎潟に足を運んで見学に行くには、徒歩だと時間がかかるため、写真を活用して理解を図った。
- ・昔の様子を扱う資料が少ないため、地域の団体が発行している雑誌の写真を活用した。
- ・乗船体験が天候や船頭の予定、工事の関係に左右され、実施予定日より3か月遅れたことと、舟乗り場が遠くになってしまったため、徒歩移動が困難になり、車を手配しなければならず、想定外の出費が生じた。

(3) 児童の反応

- ・里潟についての話を聴いたり、水辺の会の講話で「里潟」を守ることの大切さを知ったりしたことで、人が潟の中に入り、何ができるのかということを考えたいという課題意識をもつことができた。
- ・子どもが知らない新事実と出あったときに、「調べたい」という思いをもって追求していた。
- ・小学生の自分にもできることがたくさんあると感じていた。

(4) 担当教諭及び担当外教諭の変化

- ・子どもの思いに寄り添いながら進めることで子どもが「自分事」として活動することが分かった。

(5) 今後の課題と取り組み〔児童の思考過程と指導内容との関連付けから、留意すべき事項等〕

- ・子どもの鳥屋野潟への思いが高まったので、本活動を持続可能な活動にしていきたい。
- ・市との連携を図りながら、地域住民の意見を聞いて、循環型の里潟のあり方について提言できるようにしていきたい。
- ・鳥屋野潟周辺の他校とも連携を図りながら活動に取り組むことで、多くの方々に鳥屋野潟の環境を守る活動等を発信できると感じた。